

2022年5月22日 礼拝説教要旨

詩編講解説教110「王なるキリスト」

詩編110：1～7、エフェソ1：20～23

第110編1節に「わたしの右の座に就くがよい。わたしはあなたの敵をあなたの足台としよう」とあります。この部分には新約聖書において最もよく引用されている詩編の御言葉です。福音書にも繰り返し登場しますし、また使徒言行録、パウロ書簡にも出て来ます。エフェソの信徒への手紙にも「天において御自分の右の座に着かせ」（1：20）とありますが、「神の右の座」という表現は詩編第110編を根拠にしています。それは使徒信条の「全能の父なる神の右に座したまえり」という告白の根拠でもあります。そう考えますと、この詩編第110編の与えている影響は計り知れないものがあります。旧約の時代から新約の時代、そして教会の歴史を貫いて今日までキリストを雄弁に証しする御言葉として読み継がれているのです。今日は特にこの1節の部分に注目して、キリストの昇天の意味を考えましょう。

「右の座」とは、王から直接その権威を委託されている大臣の座であると言われます。ですからキリストが天に昇り、全能の父なる神の右に座するという場合、それは今キリストが真の王としてすべてのものの上に立たれているということです。エフェソの信徒への手紙には「すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き」（エフェソ1：21）とあります。実際この世には様々な支配、権威があります。王、為政者がいて、一見、わたしたちはその支配の下に置かれているように感じるでしょう。しかしそうではありません。その地上の王の上に立ち、支配しているお方がいらっしゃる。地上の王の支配が最後のものではないのです。どんなにこの世の支配者、独裁者の支配が絶対のように思っても、最後はこのキリストの下に裁かれなければなりません。すべての権威がキリストの前に空しくされ、王なるキリストの前にひれ伏すのです。

そのようにキリストをこそ真の王とすることは、この世の支配から自由であり、またどのような支配にも屈しない強さをそこに生み出します。教会の歴史はそれこそ国家の弾圧の歴史そのものと捉えることもできます。ローマ帝国に始まり、ナチスの独裁に至るまで、ある時はこれに抵抗して戦い、またある時は地下に潜って礼拝を続けました。日本においても、キリシタンの迫害から、二つの大戦下にあっては宗教弾圧と国家権力の支配の下に苦しめられてきた歴史があります。それでも信仰を捨てず、これを守る強さとしなやかさを持つのです。

例えば、ナチス政権下にあつて、これに抵抗したドイツの教会は、バルメン宣言という宣言文を出しました。その冒頭の言葉はこういう言葉です。「聖書において我々に証しされているイエス・キリストは、我々が聴くべき、また、我々が生と死において信頼し服従すべき神の唯一の言葉である。教会がその宣教の源として、神のこの唯一の御言葉の他に、またそれと並んで、さらに他の出来事や力、現象や真理を、神の啓示として承認しうるとか、承認しなければならぬという誤った教えを、我々は退ける」（第一項）バルメン宣言は、政治的な言葉は一切出てきません。ナチスのナ字も出てきませんが、唯一の神の言葉以外に自分たちの権威はないという宣言であり、それは当時のドイツにおいて極めて政治的な意味を持ちました。つまりヒトラーの支配ではなく、自分たちは神の言葉を唯一の真理として信頼し服従するという宣言なのです。それは他の権威をすべて退け、そこから自由にされることを意味します。キリストを真の王として迎える時に、わたしたちもその自由さを持つことができます。

何より教会はこの地上において、唯一キリストのご支配を表す場所です。「神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました」(エフェソ1:22)とあります。洗礼を受けてキリストの御体なる教会に繋がることでわたしたちはこのキリストのご支配を生きることができます。しかし教会もまた誘惑があります。時としてキリストのご支配が見えなくなることがある。つまり人間的な支配が起こる時に、教会もまた過ちを犯します。牧師や長老、有力な信徒が力を持ち、誰も何も言えなくなることがあります。教会がおかしくなるのは、決まって人間的な支配が起きる時です。キリストの言葉ではなく、人間の言葉に振り回されて、教会が疲弊していく。そういう例は枚挙にいとまがありません。そこに人間の罪の現実があります。

けれども今日の御言葉に「わたしはあなたの敵をあなたの足台としよう」(110:1)とあります。これは比喻ですが、敵の首を踏みつけ完全に征服する姿を表しています。敵とは、わたしたちを支配するこの世の様々な支配、権威であり、その大元は罪と死の支配と理解してよいでしょう。イエス・キリストは十字架とよみがえりの御業によって、この罪と死の支配に勝利してくださいました。そして天に昇られて、神の右に座し、真の王としてすべてを支配しておられます。わたしたちは勝利のキリストの下にすべての束縛から自由にされ、守られ、やがて終末の完成を迎えるのです。

『ハイデルベルク信仰問答』ではキリストの三職、「預言者・祭司・王」を告白しますが、王なるキリストについて次のように言います。「わたしたちの永遠の王として、御自分の言葉と霊とによってわたしたちを治め、獲得なさった贖いのもとに、わたしたちを守り保ってくださいのです」(問31) どんなに罪の力が強力に思えても、王なるキリストの下に守り保たれる。そしてこのキリストのご支配にあるとき、わたしたちもまた「この世において自由な良心をもって罪や悪魔と戦い、ついには全被造物をこの方と共に永遠に支配する」(問32)と告白します。もはや何ものにも縛られず、自由な良心をもって罪と戦う。そして神さまの恵みの御支配をこの世に押し広げていく。それが天に昇られたキリストにつながるわたしたちの新しい生き方なのです。